

指を折って  
算数を解く子の  
どこが  
悪いのだろうか

# 何をどう学ぶか

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。  
ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



わたしは元高校教師。16年間、教職に身を置きました。見えていなかったことが今、たくさん見えるようになりました。

## ☆1

日本で学校制度が始まって150年。

『学問ノススメ』で福沢諭吉は、他人の自由を妨げずに安楽に生きる上で、人間は平等だ。与えられた権利を使って、快適な生活をするために学問をしよう。それぞれの身分は生まれでなく、学問で身に付けた**見識**で決まるべきだと述べたのです。

これによって、それまでの日本人が知らなかった自由・独立・平等の価値観が新時代の社会を支配することを宣言します。

思うに、太平洋戦争に敗れ、憲法改正によってそして高度経済成長やバブル崩壊を経て今、諭吉の宣言が現実化したようです。

## ★2

では、学校で学ぶ内容はどうでしょうか。

中心はいまだに「読み書き、そろばん」技能の重視、さまざまな教科に関する知識を伝達することにとどまったままです。

一時期、子どもが授業に積極的に参加する**アクティブラーニング**が提唱されました

が、これも型に当てはめて評価するだけで消滅しつつあるようです。

## ☆3

さまざまなテレビ番組で数多く紹介されるのは「**普通**」の仕事や生き方ではなく、大半の人が選ばない仕事や生き方です。

その事と、不登校という「普通」でない学びの機会を選択した子たちに、どのような学びが可能なのか、今の教育内容で良いのかという反省を重ねた論議はなされていません。

## ★4

今後、現在の仕事の半分はなくなり、しかも人手は足りません。それに代わる新しい仕事と働き方が必要な世の中になります。

いつまで不登校を悪い事だと考え、排除するのでしょうか。今の学校とは違う内容と教え方を、誰が提供するのでしょうか。

登校・登園しぶりの子、不登校の子を取り巻く環境は、おとなの好き嫌いや考えではなく、その子にとってより良い将来を考える環境であって欲しいと思います。

